

6年生「イサムノグチってどんな人」2学期実践のまとめ

1 単元の実践の具体

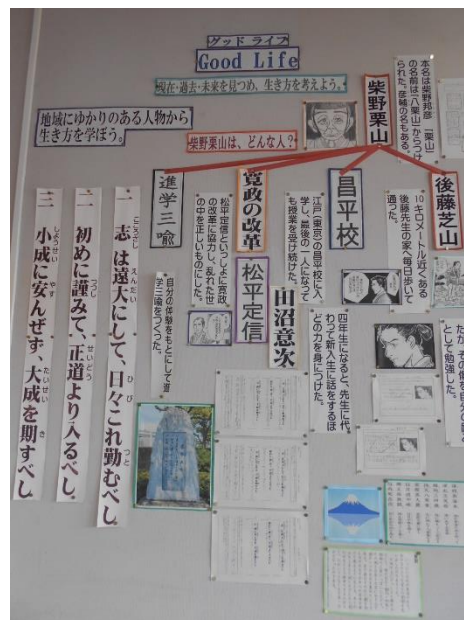
(1) 本時まで

「グッドライフ」のテーマのもと、児童は地域の偉人に生き方を学ぶことを目標にして、柴野栗山について学習した。幼少時にどのような努力をして勉学に励んだかを文章資料や写真、歴史漫画やビデオ等を利用して調べながら栗山の生き方から学んでいった。

2学期は引き続き地域の偉人として「イサムノグチ」を取り上げた。

イサムノグチは世界的な彫刻家であり、牟礼北校区には庭園美術館があり彼の残した作品を、ガイドの案内付きで楽しむことができる。しかし、児童はイサムノグチのことをあまり知っておらずどのような業績を残したのかを知っている物はほとんどいなかった。

そこで、イサムノグチがどのようにして牟礼に関わっていったのか、どんな作品をつくったのかなどについて個人用ノートPCを使ってインターネットで調べていった。児童は自分の気に入った作品を探すなどして少しずつイサムノグチの魅力に近づいていった。



(2) 本時

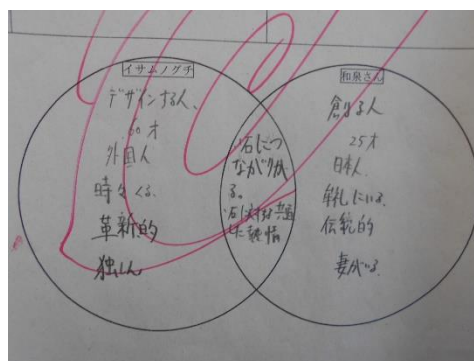
イサムノグチの作品は、牟礼町の石工たちの高い技術に支えられている。その中でも特にイサムノグチを献身的に支えたのが和泉正敏である。作品をつくるだけではなく生活面においても彼の果たした役割は大きい。そこで、本時ではイサムノグチを支えた和泉正敏の仕事ぶりについて見ていくことで、違った生き方について学ぶことができると考えた。和泉正敏とイサムノグチのかかわりについての読み物資料は書籍とネット上の写真を使って教師が作成した。

○グループ活動の充実（視覚的な資料を使って）

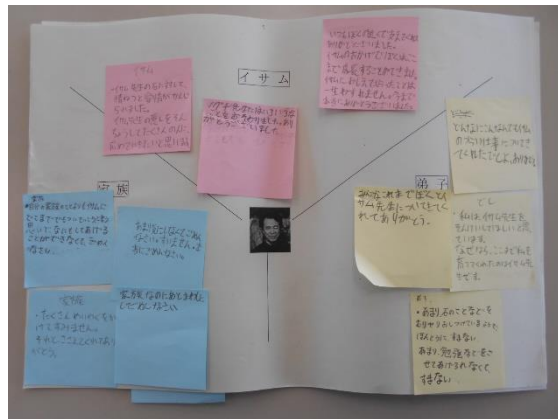
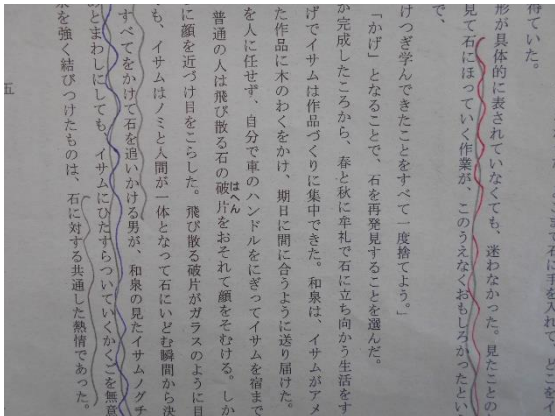
グループ活動が充実したものになるように視覚的な資料を用意した。

1つ目は「ベン図」である。2人の共通点や相違点を考えることで、石に対する熱い思いは同じであることが分かるようになった。本時はこのベン図を使った確認から学習を開始した。

2つ目は教師が用意した読み物資料に色分けした線を引かせたことである。楽しさが分かる部分には赤線、苦しさには青線で色分けをさせることで考えるポイントを焦点化した。

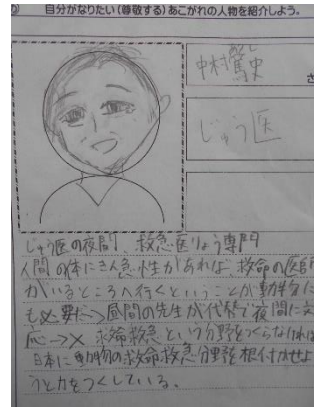
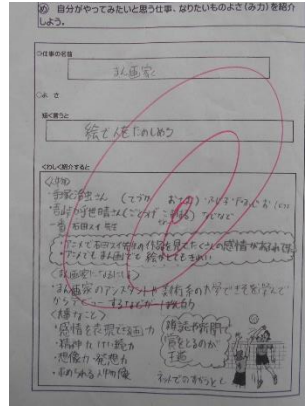
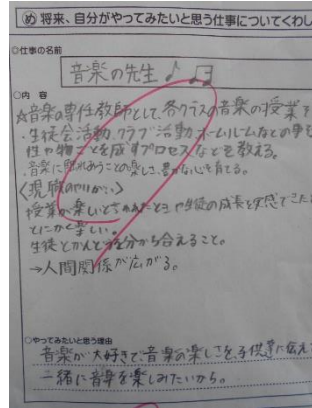
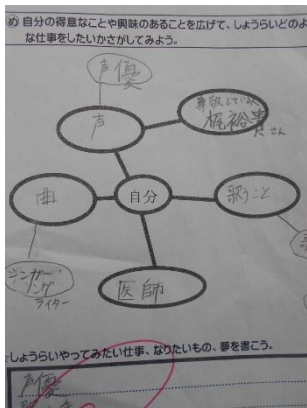


3つ目は、Yチャートである。和泉さんの思いをいろいろな方向から想像させるために、イサム、家族、弟子の3つの観点を設定し自分の考えを付箋紙に書かせた。



(3) 本時後

3学期は児童一人一人がどのような仕事についてどんな目標を持って生活したいかについて考えている。なりたい職業や尊敬する人物を調べながら自分の夢をふくらませ、グッドライフについて生き方を考えている。



2 成果と課題

- 地域の偉人を学ぶことで、自分たちの住む牟礼地区に対する誇りのようなものが感じられた。
- ▲調べたことを誰にどのように伝えていくかという相手意識が弱かった。庭園美術館に発信すると言うことも考えたがコロナのこともあり見学もできずに不十分な結果となった。
- ▲地域にどのように関わる自分を見つけるかが最終目標であると思うが、現在地域で活躍する人との具体的な接触や交流がなかったため、単なるあこがれの仕事探しに終わってしまった。